

文化財保存新潟県協議会・第14回大会**今こそ、新潟の古墳文化を見直そう！**

今年度の文化財保存新潟県協議会総・大会を以下のように開催いたします。

総会は文化財保存新潟県協議会会員（新潟県内在住の文化財保存全国協議会会員）が年に一度集まり、本会のこれまでの活動を振り返り、今後の指針を協議する重要な会です。また、大会は広く市民に参加を呼びかけ、遺跡と歴史と一緒に学ぼうという機会です。

本会の結成以来、私たちを導いてきた故甘粕健会長が新潟大学に着任されたのが1977（昭和52）年。当時、越後平野には旧巻町（現新潟市）に菖蒲塚古墳がひとつ、ポツンとあるだけ。いわばこの地域は「古墳の空白地帯」と呼べるものでした。それから35年。今や県内ではたくさん前期古墳が発見され、多くの知見が得られています。

今春、ガイダンス施設である「弥生の丘展示館」がオープンした新潟市古津八幡山遺跡は、25年前の市民運動で保存された弥生時代の高地性集落ですが、遺跡の北端に位置する古津八幡山古墳は2か年にわたる発掘調査の結果、独特の盛り土工法で築かれたことが明らかになりました。さらに、阿賀野川以北で初めて発見された前期古墳・胎内市城の山古墳では、私たちの想像を遙かに超える豊富な副葬品の存在が明らかになり、全国的に注目を浴びました。9月8・9日の現地説明会には、2日間で2,000人もの見学者が訪れたと言います。

そこで今回は、これらふたつの古墳の発掘調査担当者から最新の調査成果を報告していただきます。そして、本会副会長でもある橋本博文新潟大学教授が、新潟の古墳文化研究の現在の到達点と今後の展望を語ります。みなさん、ふるってご参加下さい。

と き：2012年12月22日（土）

と ころ：新潟市歴史博物館（みなとぴあ）・2階セミナー室

日 程：総 会 12：30～13：00

大 会 13：00 一般受付開始

13：30開会～16：15（終了予定）

報告「新潟市古津八幡山古墳の調査成果」

相田 泰臣 さん（新潟市文化財センター）

「胎内市城の山古墳の調査成果」

水澤 幸一 さん（胎内市教育委員会）

講演「新潟の古墳文化研究最前線」

橋本 博文 本会副会長（新潟大学教授）

懇親会 17：00～（会場は当日ご案内します。会費4000円程度。）

※資料代500円をいただきます。詳しくは、同封のチラシをご覧ください。

県内の遺跡発掘調査から

見附市耳取遺跡発掘調査現地説明会に参加して

新潟市 廣野 耕造



見附市教育委員会より事前にご案内をいただき、耳取遺跡発掘調査現地説明会の午前の回に参加してきました（2012年10月28日開催）。当日はあいにくの雨模様でしたが、地元在住と思われるみなさんを中心に、20名前後の方が集まりました。文新協からは、川上真紀子さん、木村英祐さんのお姿がありました。

耳取遺跡は、文新協会員のみなさんにとってはいまさら言うまでもない有名な遺跡でしょう。耳

取丘陵上を中心とした半径1.5kmというきわめてコンパクトな範囲内に（断続はあるものの）旧石器時代から近世までの長期間に及ぶ遺跡群が良好な状態で残されており、一地域の歴史の変遷をとらえることのできる格好のフィールドとなっています。かつては文全協を中心とした保存運動も繰り広げられました。1967年には学術発掘調査、1987年には範囲確認のための発掘調査が行われています。

今回、見附市教育委員会によって2011年及び2012年の2箇年にわたって実施されている確認調査は、丘陵平坦部に広がる耳取遺跡の全容を把握し、今後の保存・活用を図るためのものとのことです。以下、現地での説明と配布資料により、調査の成果を簡単に紹介します。

- ・縄文時代中期～晩期の遺跡であることは既往の調査から知られていたが、遺物量等からみて中期中葉、後期初頭及び晩期末にピークがあること
- ・時期別の空間利用としては、若干の重なりはあるものの、中期、後期、晩期でそれぞれ範囲の中心が異なること（これは主として遺物の平面的な分布状況から推定している）
- ・中期の竪穴住居は11棟（現地説明会開催時点）検出されており、それら住居に伴う炉も5基発見されていること（ただし1967年の調査で検出済みのものを含む）。このうち、土器敷石囲炉は最大長2.7m、最大幅0.7mと、新潟県内のものとしては最大級の規模を持つこと（長岡市栃倉遺跡のものと同規模）
- ・丘陵北側の斜面は後期の土器捨場として利用されていたこと

調査では、大量の土器片のほか、中期のヒスイ大珠・後期の独鈷石など、精神生活にかかわる石製品も発見されています。

調査担当の安藤さんのお話では、1967年調査時の試掘坑を再発掘し、遺跡全体の中で再評価することを大きな目的としていたが、その試掘坑の位置を特定するのが大変難しく、調査も終盤にさしかかってようやく地元の方からの聞き取りによって探し当てることができたとのことでした。ほんの40数年前の調査が、早くも考古学的探索の対象となってしまうことを目の当たりにすると、日ごろ行政の発掘調査に携わっている身としては、今後とも確実かつ容易に後世の検証が可能となる記録方式の確立に努めなければならないと改めて痛感しました。

今回の耳取遺跡の発掘調査では、現地説明会情報の発信はもちろん、平行して特別展開催や

整理作業状況の公開が行われており、非常に見ごたえのあるものでした。また、見附市のホームページではほぼリアルタイムで調査成果が更新されています。発掘調査の現場を運営しながら、一方でこれらの公開事業を行うことは並大抵の労力ではないと思います。関係者のみなさんのご努力に敬意と感謝の意を表します。

今回の調査成果が、これから耳取遺跡の保存・活用につながっていくことを期待します。

国史跡「古津八幡山古墳」現地説明会に参加して

川上 真紀子

10月8日（月）、新潟市古津八幡山古墳で現地説明会が開かれました。その日は天候にも恵まれ、多くの参加者があったようです。私はその前日に見学させていただきました。雨の中ではありませんでしたが、大変充実した説明を受け、じっくりと見学することが出来、有意義な体験となりました。雨の中の見学でも古津八幡山古墳の魅力はわたしたちをとりこにしました。ではなぜとりこになったのか、少しご紹介しましょう。

径60メートルの大円墳と確認

今回の調査は、昨年度につづいて古墳の内容を把握するためのもので、造り出しや埋葬施設の有無の確認、古墳の築造方法を解明することを目的としていました。これまでの実測調査で、平野側に向けて造り出しがある可能性が指摘されていましたが、今回の調査では、盛り土が確認されていないことなどから造り出しには否定的な見解が示されました。



現状では直径60メートルの県下最大の円墳であると確認されました。作り出しを持たない大円墳となると、それはどのような意味を持つものなのでしょう。この古墳の性格を知る上でも考えてみたくなることです。

埋葬施設は不明

今回の調査の大きな目的は埋葬施設を探すことでしたが、残念ながら、その痕跡も発見されなかったそうです。かつてあった気象関係の施設もきれいに取り払われ、実に広い墳頂平坦部を実感することが出来ました。埋葬施設はどこへ行ってしまったのでしょうか。調査では、痕跡もないことが、逆に重要な事実を証明しているようです。埋葬施設がないということはどのように解釈すればいいのでしょうか。広い墳頂平坦部に立って、さまざまな可能性が頭の中をめぐりました。埋葬施設がないのにこの古墳は魅力的です。

古墳を盛っていく過程が判明

古墳の築造過程は、なかなかわかりません。多くの調査は、埋葬施設を中心に行われ、墳丘については築造過程を探求出来るほどの情報を得ることは難しいのです。しかし、古津八幡山古墳では、その過程が大まかにではあれ、推定できるデータが揃いました。ここでは詳しく触れませんが、実に計画的な工程を持っていて、この古墳がただ者ではないこと教えてくれます。築造の現場で人々に工程を指示する人の姿が目につかびます。新しい技術のもとにこの大土木

工事を成し遂げていったのでしょう。

古墳築造中に休止期間があった

中央部の小丘部が完成した後、墳丘築造がとまっていた証拠が発見されました。それは盛り土の間に挟まっていた黒い層です。これは、草木の腐植土によって黒く見えるものでしばらく、周辺に草木が茂ったということを示しているからです。この事実も大変興味深いものです。



親子連れで賑わう弥生の丘展示館

今回、見学させていただいて、八幡山古墳の奥深さを再び知らされた思いです。埋葬施設がなくとも、しっかりした発掘調査を行えば、さまざまな情報がそこから読み取れることも実感しました。これからも八幡山の謎には注目し続けなければなりません。

帰りがけに「弥生の丘展示館」にも立ち寄りました。雨の中、子どもたちも多く訪れ、さまざまな体験に興じていました。おまけに、古代米で作ったおはぎまでいただいて実に充実の日曜日でした。一緒に行った高校生も興奮状態だったことを付け足しておきます。

編集後記

今年もたくさんの遺跡の発掘調査が行われました。中でも最も注目を浴びたのは、豊富な副葬品が発見され全国ニュースでも取り上げられた胎内市城の山古墳です。また、今回ご報告いただいた見附市耳取遺跡や新潟市古津八幡山古墳は、四半世紀前に私たちが保存運動を行い、地元市民の熱心な活動で現状が保たれている貴重な遺跡です。これらの遺跡の調査が行われ、その重要性がさらに確かなものになっているのはたいへん喜ばしいことです。

一方、10月8日には大江山公園（新潟市江南区）で、恒例の大江山縄文市が開催されました。この日は快晴に恵まれたこともあり、広い公園には多くの家族連れの姿が。その公園の一角で、様々な古代体験や地元食材の販売などが盛大に行われていました。この取り組みも今年で6回目。地域の人々が中心となり、周辺の自治会や学校などが関わりながら地域の歴史を学んでいます。公園は縄文時代前期（約6,000年前）の深鉢型土器が出土した笹山前遺跡をイメージし整備したものです。このような祭が地域の人々によって継続的に開催されているのはうれしい限りです。こうした活動からも目が離せません。

この『会報』は文全協会員でなくても、文新協行事に参加された方には、可能な限りお送りしています（ご参加なき場合は郵送を取りやめる場合があります）。名簿は本会からの連絡にのみ使用し、個人情報保護に留意し厳正に管理しています。会報送付がご迷惑な方は、事務局までご一報下さい。



文化財保存新潟県協議会事務局（入会についてのお問い合わせも）

ホームページ：<http://www10.ocn.ne.jp/~bunsin-k/>

E-mail：bun-sin-kyou@js8.so-net.ne.jp